

第214回～第239回

☆放送時間☆

期間	曜日	時間帯
昭和51年4月 5日～ 昭和51年9月27日	月	21時00分～ 21時54分

司会：曾我廼家明蝶（第214回～239回）
三ツ矢歌子（第214回～239回）

語り：奈良岡朋子（第214回～239回）

☆凡例☆

- | | |
|-------------|-------|
| ①サブタイトル・放送回 | ②出演者 |
| ③曲目（歌唱者）（※） | ④放送概要 |

※出演順が判明している回は、冒頭に太字で（出演順）と記入）

昭和51年

昭和51年4月5日

①「ひばり、五木、ちあき艶歌決定版！！」 #214

②美空ひばり、五木ひろし、ちあきなおみ

③「道頓堀行進曲」(不明)

④ 美空ひばり、五木ひろし、ちあきなおみの顔合わせで、大正から現在までの名曲の数々を特集。

今夜から神山繁に代わって曾我廼家明蝶が司会を務める。芸歴50年の明蝶だが、司会業はこれが三度目。同じ司会の三ツ矢歌子とは、もちろん初顔合わせ。ひと味違ったオトナの歌謡番組を狙うそうだが、明蝶は「私は私なりの特色を出したいですなあ。たまには酒でも飲んで脱線するかも……地でやらせてもらいます」と、抱負を語る。

第一部は、司会の明蝶と三ツ矢がともに大阪出身ということから、「道頓堀行進曲」など大阪にちなんだ曲を特集。

また、大正から昭和のヒット曲の特集。

昭和51年4月12日

①「魅惑の夜！石原裕次郎男ごころ女ごころを歌う！」 #215

②石原裕次郎、内山田洋とクール・ファイブ、青江三奈、弘田三枝子、北村英治

③「東京ラブソディー」(石原)、「嵐を呼ぶ男」(石原)、「紅の翼」(石原)、「鷲と鷹」(石原)、「二人でお酒を」(青江)、「ベッドで煙草を吸わないで」(石原)、「爪」(弘田)

④ 石原裕次郎をメインに内山田洋とクール・ファイブ、弘田三枝子、青江三奈らが出演。石原が戦前、戦後のヒット曲や、日活時代の映画主題歌を歌いまくる。

第一部は、石原の「東京ラブソディー」ほか、昭和10年代初期のヒット曲を特集。石原が自分の波乱に富んだ青春時代を語る。

第二部は、石原の日活時代のヒット曲特集。「嵐を呼ぶ男」「紅の翼」「鷲と鷹」などを披露、それぞれの歌にちなんだエピソードを紹介。

第三部は、クラリネットの北村英治を加えたムード歌謡の特集で、曲は、青江が「二人でお酒を」、石原が「ベッドで煙草を吸わないで」、弘田が「爪」ほか。

昭和51年4月19日

①「涙の演歌！ああ母なればこそ」 #216

②二葉百合子、八代亜紀、中条きよし、ちあきなおみ

③「悲しき子守唄」(二葉)、「岸壁の母」(二葉)、「雨に咲く花」(八代・ちあき)、「無情の夢」(不明)

④ 浪曲歌謡の二葉百合子をはじめ、ちあきなおみ、中条きよし、八代亜紀の顔ぶれで、”母もの歌謡”ヒット曲特集。

第一部は、母もの歌謡特集で、二葉が映画”愛染かつら”の主題歌「悲しき子守唄」を歌い、合間に出演者一同が母のことや”おふくろの味”などを語り合う。

第二部は、二葉が「岸壁の母」をセリフ、フシ入りで熱演。

第三部は”女ごころ”を歌った曲を特集。曲は、八代とちあきで「雨に咲く花」ほか。

視聴者のリクエストによる”思い出の歌”は、「無情の夢」。

昭和51年4月26日

①「港恋唄なみだ唄演歌一筋！」 #217

②田端義夫、春日八郎、フランク永井、人見静一郎、吉村捨男

③「玄海ブルース」(田端)、「波止場気質」(田端・春日・フランク)、「君恋し」(春日)、「別れの一本杉」(フランク)、「片瀬波」(春日・フランク)、「ふるさとの灯台」(田端)、「かえり船」(田端)、

④ 田畑義夫、春日八郎、フランク永井の競演で、マドロス演歌特集や、珍しい持ち歌交換、バタヤン特集などを繰り広げる。

第一部は、マドロス、波止場もの特集。田端の「玄海ブルース」や、三人共演の「波止場気質」ほか。歌の合間に、マドロスものに関するエピソードなどを一同が語り合う。

第二部は、春日とフランクのコーナー。持ち歌を交換して歌うのが面白い。春日がフランクのレコード大賞受賞曲の「君恋し」を歌えば、フランクは春日の不朽の名曲「別れの一本杉」をそれぞれ歌う。ラストは二人で戦前の名曲「片瀬波」をじっくりと聞かせる。

第三部は、バタヤンコーナー。田端の司会を勤めてきた人見静一郎、旧大阪松竹歌劇団支配人吉村捨男の両氏が出演、大阪・千日前の”大劇”にまつわるエピソードを語り合いながら、田端が「ふるさとの灯台」ほかを歌う。

視聴者のリクエストによる”思い出の歌”は、田端の「かえり船」。

同年5月2日付読売新聞東京版朝刊に、「石井、里見氏はどこ」と題する65歳男性視聴者からの以下の投書が載っている。

NETテレビ二十六日「にっぽんの歌」(後9・00)で懐かしや人見静一郎氏が名調子を聞かせてくれた。無声映画はなやかなりしころの大阪・松竹座の名弁士であった。若かったころ毎週通ったものだが、人見氏と同じく弁士をしていた石井春瞳、里見義郎氏らの消息も知りたいものだ。

昭和51年5月3日

①「絶唱！恋と別れの慕情艶歌」 #218

②森進一、青江三奈、森昌子、淡谷のり子

③「女のためいき」(森進一)、「女の階段」(青江)、「別れのブルース」(淡谷)、「白樺の小径」(淡谷・森昌子)、「襟裳岬」(森進一)、「ポエマ」(淡谷)

④ 森進一、青江三奈、森昌子、それにベテランの淡谷のり子を迎えて、恋する女の悲しみ、嘆きなど”女ごころ”をうたった曲を特集する。

第一部は”女ごころ”の特集。森進一が「女のためいき」、青江が「女の階段」ほか。合間に森進一、青江がデビュー時代の思い出などを淡谷を交えて語り合う。

第二部は”ブルース特集”。淡谷が「別れのブルース」、淡谷と森昌子が「白樺の小径」ほか。

第三部は、森進一の”旅情の歌”特集。「襟裳岬」など4曲を情熱をこめて歌う。

リクエストによる”思い出の歌”は淡谷の「ポエマ」。

昭和51年

昭和51年5月10日

①「鶴田浩二・着流し艶歌！思い出の歌！」 #219

②鶴田浩二、島倉千代子、都はるみ

③「流転」（鶴田）、「むらさき小唄」（島倉）、「お島千太郎旅唄」（都）、「明治一代女」（鶴田・島倉・都）、「りんどう峠」（島倉）、「好きになった人」（都）「アイルランドの娘」（鶴田）

④ 着流し姿の鶴田浩二を中心に、島倉千代子、都はるみの顔合わせで、艶歌を特集する。

第一部は、芸道もの時代劇の主題歌特集。鶴田が「流転」、島倉が「むらさき小唄」、都が「お島千太郎旅唄」ほか。合間にそれぞれの映画にちなむエピソードなどを語り合い、三人で「明治一代女」を歌う。

第二部は、島倉と都のコーナー。島倉が「りんどう峠」、都が「好きになった人」ほかを披露。

第三部は、若き日の鶴田の愛唱歌集。ディック・ミネの「アイルランドの娘」ほかを歌い、バタクさい歌が好きだったという、多感な少年時代の思い出を語る。

昭和51年5月17日

①「熱唱！美空ひばり昭和歌謡30年！（前）」 #220

②美空ひばり、ミュージカル・アカデミー

③「悲しき口笛」（美空）、「東京キッド」（美空）、「私は街の子」（美空）、「港町十三番地」（美空）、「あの日の船はもう来ない」（美空）、「真赤な太陽」（美空）、「風」（美空）、「リンゴ追分」（美空）

④ 今週と来週の二回にわたって、美空ひばりのワンマンショーを送る。芸能生活三十周年にちなんで、15曲ずつ合計30曲を歌うが、持ち歌の他にフォーク、ポップス調もミックスして幅の広さを披露する。

第一部は、デビュー当時のヒット曲特集。「悲しき口笛」「東京キッド」「私は街の子」ほか。歌の合間に、司会の曾我廼家明蝶、三ツ矢歌子と当時の世相やデビュー当時の思い出などを語り合う。

第二部は、”波止場もの”特集。「港町十三番地」「あの日の船はもう来ない」ほかを歌い、港町横浜に生まれ育った美空が、波止場や海に寄せるあこがれなどを語る。

第三部は、フォーク、ポピュラー調のヒット曲特集。「真赤な太陽」「風」ほかを披露。

視聴者のリクエストによる”思い出の歌”は「リンゴ追分」。

昭和51年5月24日

①「熱唱！美空ひばり昭和歌謡30年！（後）」 #221

②美空ひばり、西村小楽天

③「花笠道中」（美空）、「越後獅子の唄」（美空）、「浪曲子守唄」（美空）、「女の花道」（美空）、「柔」（美空）、「星の流れに」（美空）、「骨まで愛して」（美空）、「悲しい酒」（美空）、「ある女の詩」（美空）、「雑草の歌」（美空）

④ 美空ひばりの歌でつづる戦後歌謡史の後編。長年にわたってひばりのステージの司会を務めてきた西村小楽天がゲスト出演。

第一部は、なつかしい時代劇映画主題歌特集。曲は、「花笠道中」「越後獅子の唄」など4曲。美空が、嵐寛寿郎と共演した時の思い出や時代劇の楽しさなどを語った後、「大好きな曲のひとつ」とい

う一節太郎の「浪曲子守唄」をセリフ入りで”初公開”する。

第二部は、美空得意のレパートリーの一つ、人生ひとすじ演歌の特集。「女の花道」「柔」を、司会者西村小楽天の名調子に乗せて歌う。

第三部は、女の悲しみ、女の愛を歌うヒット曲特集。菊池章子の「星の流れに」、城卓矢の「骨まで愛して」など、それぞれの歌手のイメージが強い曲を歌い、持ち歌の「悲しい酒」で締めくくる。

視聴者のリクエストによる”思い出の歌”は、「ある女の詩」。

最後に、美空が芸能生活30周年にける決意を語り、新曲「雑草の歌」を歌う。

昭和51年5月31日

①「競艶！花のお座敷日本調！」 #222

②島倉千代子、北島三郎、水前寺清子、八代亜紀

③「お座敷小唄」（水前寺・八代・北島）、「野崎小唄」（島倉）、「お駒恋姿」（八代・北島）、「船頭可愛いや」（北島・水前寺）、「奴さん」（水前寺）、「さのさ」（八代）、「五木の子守唄」（八代）、「田原坂」（水前寺）、「ソーラン節」（北島）、「思い出さん今日は」（島倉）

④ 島倉千代子、北島三郎、水前寺清子、八代亜紀の顔合わせで、おなじみのお座敷ソング、民謡の数々を披露する。

オープニングは水前寺、八代、北島の共演で「お座敷小唄」。

第一部は、戦前の日本調ヒット曲特集。島倉が「野崎小唄」、八代と北島が「お駒恋姿」、北島と水前寺が「船頭可愛いや」ほか。

第二部は、俗謡、民謡特集。水前寺が「奴さん」、八代が「さのさ」を歌った後、それぞれ出身地にちなんだ民謡を競演、八代が「五木の子守唄」、水前寺が「田原坂」、北島が「ソーラン節」。

視聴者のリクエストによる”思い出の歌”は島倉の「思い出さん今日は」。

昭和51年6月7日

①「決定版！艶歌の真髓！！」 #223

②ディック・ミネ、藤山一郎、五木ひろし、都はるみ、森進一

③「よこはまたそがれ」（五木）、「アンコ椿は恋の花」（都）、「港町ブルース」（森）、「影を慕いて」（藤山）、「青春日記」（藤山）、「旅姿三人男」（ディック）、「長崎の鐘」（藤山）

④ 都はるみ、森進一、五木ひろしの三人の若手組に、特別ゲストのベテラン・藤山一郎、それにけがが治り元気になったディック・ミネを加えて”演歌””艶歌”の神髓を披露する。

第一部は若手の三人がそれぞれの持ち歌と、”別れ”をテーマにしたヒット曲を歌う。曲は五木が「よこはまたそがれ」、都が「アンコ椿は恋の花」、森が「港町ブルース」ほか。また三人がそれぞれ歌手を志した動機などを語る。

第二部は藤山のコーナー。昭和の初期、モダンボーイのハシリとして評判になった藤山が、クルマやゴルフの話をした後、若手の三人と組んで当時のヒット曲「影を慕いて」「青春日記」などを披露。

第三部は、ディックのコーナー。「旅姿三人男」を歌い、司会の曾我廼家明蝶と”オールドプレーボーイ”同士でユーモラスな浮気談議に花を咲かせる。

視聴者のリクエストによる”思い出の歌”は、藤山の「長崎の鐘」。

昭和51年

三か月前、愛人宅で倒れ、重傷を負ったディックは、今夜の番組でカムバックする。一時は歌手生活も危ぶまれていたが、先月18日のVTR撮りには薄いブルーのスーツにステッチの入った若々しい姿でスタジオ入り。検査のため病院に缶詰めになっていたが、お医者さんの許可をもらって慎重に再起をはかった。「倒れた所が悪かった。もう少し考えて倒れればよかったよ……」と、さすがの豪傑も本番では大いに照れていた。なお、完全に回復はしておらず、収録後また病院へ逆もどり。それでも「まだまだ歌はすてられません。がんばります」と元気なディック。

昭和51年6月14日

- ①「歌まつり！花の紅白大合戦」 #224
- ②エト邦枝、青木光一、榎本美佐江、霧島昇、織井茂子、白根一男、灰田勝彦、菅原都々子、三浦洸一、藤島桓夫、若山彰、奈良光枝、市丸
- ③「燦めく星座」(灰田)、「十三夜」(榎本)、「柿の木坂の家」(青木)、「江の島エレジー」(菅原)、「カスバの女」(エト)、「東京の人」(三浦)、「潮来花嫁さん」(花村)、「お月さん今晚は」(藤島)、「はたちの詩集」(白根)、「夜がわらってる」(織井)、「喜びも悲しみも幾歳月」(若山)、「雨の夜汽車」(奈良)、「誰か故郷を想わざる」(霧島)、「天竜下れば」(市丸)、「木曾節」(全員)
- ④ 東京・芝の郵便貯金ホールから男女七人ずつ十四人のベテラン歌手が紅白に分かれ、交互におなじみのヒット曲を競演する。

灰田勝彦の「燦めく星座」で始まり、榎本美佐江が「十三夜」、青木光一が「柿の木坂の家」、菅原都々子が「江の島エレジー」、エト邦枝が「カスバの女」、三浦洸一が「東京の人」、花村菊江が「潮来花嫁さん」、そして藤島桓夫が「お月さん今晚は」と続く。

次いで視聴者のリクエストによる”思い出の歌”コーナーに入り、白根一男と織井茂子が「はたちの詩集」「夜がわらってる」をそれぞれ歌う。

再び歌合戦に戻って、若山彰が「喜びも悲しみも幾歳月」、奈良光江が「雨の夜汽車」、霧島昇が「誰か故郷を想わざる」、市丸が「天竜下れば」を歌い、最後に全員で「木曾節」をにぎやかに歌い踊る。

昭和51年6月21日

- ①「ああ演歌！バタヤン橋の下の演歌教室／森進一・故郷！仲間！おふくろさん！／帰って来たトリオこいさんず」 #225
- ②田端義夫、森進一、若い根っ子の会、トリオこいさんず
- ③「急げ幌馬車」(田端)、「男の純情」(田端)、「ふるさと」(森・根っ子)、「おふくろさん」(森)、「イヤーかなわんわ」(こいさんず)、「親子船唄」(田端義夫)
- ④ 田端義夫、森進一、トリオこいさんずの出演で、懐かしいヒット曲を特集。

第一部は、田端が修業時代の秘話や田端ぶしを完成させるまでのエピソードを語り、「急げ幌馬車」「男の純情」などを歌う。

第二部は、集団就職で故郷鹿児島から都会に出てきた森が「若い根っ子の会」の仲間たちと語り合い、「ふるさと」などを合唱し、森は「おふくろさん」を歌う。

第三部は、ハワイから十年ぶりの里帰り津村アイ子を迎え、カスリの着物にげたばきスタイルのトリオこいさんずが昔のままに「イヤーかなわんわ」ほかを披露。

視聴者のリクエストによる”思い出の歌”は、田端の「親子船唄」。

昭和51年6月28日

- ①「大一番！花の演歌場所！」 #226
- ②井筒親方（元横綱北の富士）、松山恵子、春日八郎、藤圭子、細川たかし
- ③「男の土俵」（井筒）、「赤いランプの終列車」（春日）、「お別れ公衆電話」（松山）、「新宿の女」（藤）、「心のこり」（細川）、「銀座の恋の物語」（井筒・藤）、「お富さん」（井筒・春日）、「ネオン無情」（井筒）、「裏町人生」（松山）、「リンゴ追分」（松山）、「未練の波止場」（松山）
- ④ 春日八郎、松山恵子、藤圭子、細川たかしの実力派に加えて、元横綱北の富士の井筒親方が特別出演、プロ級といわれる美声を披露する。
井筒親方が歌う「男の土俵」でオープニング。
第一部は、春日が「赤いランプの終列車」、松山が「お別れ公衆電話」、藤が「新宿の女」、細川が「心のこり」を歌うヒット曲特集。
第二部は、井筒親方を中心にしたコーナー。同郷（北海道）のよしみで「銀座の恋の物語」を藤と、中学生時代に愛唱したという「お富さん」を春日とそれぞれデュエット、新弟子時代のエピソードなどを披露した後「ネオン無情」を歌う。
第三部は奈良岡朋子の語りでつづる松山の汗と涙の半世紀。曲は、「裏町人生」「リンゴ追分」「未練の波止場」など。

昭和51年7月5日

- ①「激突！村田、二葉の浪曲歌謡名勝負！無法松対九段の母／股旅演歌決定版！／艶姿！三浦布美子の江戸情緒」 #227
- ②村田英雄、三浦布美子、二葉百合子
- ③「旅笠道中」（村田）、「妻恋道中」（三浦）、「鴛鴦道中」（二葉）、「かっぱれ」（三浦）、「明治一代女」（三浦）、「岸壁の母」（二葉）、「無法松の一生」（村田）、「九段の母」（二葉）、「名月赤城山」（不明）
- ④ 村田英雄、三浦布美子、二葉百合子の出演で、おなじみの演歌やヒット曲を披露する。
第一部は”道中もの”特集。村田が「旅笠道中」、三浦が「妻恋道中」、二葉が「鴛鴦道中」ほかを歌う。
第二部は、三浦の歌と踊りのコーナー。芸者姿の三浦が「かっぱれ」「明治一代女」ほかを歌い、踊る。歌の合間に、初夏の浅草情緒を司会の曾我廼家明蝶、三ツ矢歌子と語り合う。
視聴者のリクエストによる”思い出の歌”コーナーは、二葉の「岸壁の母」。戦争で二人の弟を失った兵庫県姫路市の長谷川初子さんが78歳の老母とともに登場する。
最後は、村田と二葉の浪曲歌謡競演で、村田が「無法松の一生」、二葉が「九段の母」をそれぞれフシ入りで演じる。

昭和51年

昭和51年7月12日

- ①「北から南から！日本縦断・郷愁のふるさと演歌大特集！」 #228
- ②田端義夫、島倉千代子、三橋美智也、西川峰子
- ③「逢いたいなアあの人に」（島倉）、「リンゴ村から」（三橋）、「達者でナ」（三橋）、「かえり船」（田端）、「ふるさとの灯台」（田端）、「りんどう峠」（西川）、「ねんねん船唄」（西川）、「島育ち」（田端）
- ④ お盆、やぶ入り、帰省、ふるさと、といったさまざまなイメージの歌を中心に、三橋美智也の津軽三味線などを交え、ヒット曲の数々を送る。

オープニングは、島倉千代子の「逢いたいなアあの人に」、続いて三橋が「リンゴ村から」「達者でナ」、田端義夫が「かえり船」「ふるさとの灯台」ほかを歌い、合間にそれぞれのふるさとの夏の思い出を語る。三橋が津軽三味線をたっぷりきかせた後、若手の西川峰子が島倉と田端の歌に挑戦、「りんどう峠」「ねんねん船唄」を披露、島倉、田端と共演する。

視聴者のリクエストによる”思い出の歌”は、田端の「島育ち」。

昭和51年7月19日

- ①「対決！裕次郎・五木・ほろ酔い唄合戦ビッグヒット！夜の慕情」 #229
- ②石原裕次郎、五木ひろし、青江三奈、ちあきなおみ
- ③「夜霧よ今夜も有難う」（石原）、「夜空」（五木ひろし）、「夜間飛行」（ちあき）、「池袋の夜」（青江）、「よこはまたそがれ」（石原）、「錆びたナイフ」（五木）、「くちなしの花」（石原・五木）、「懐しのブルース」（青江）、「水色のワルツ」（ちあき）、「君待てども」（石原・青江・ちあき）
- ④ 石原裕次郎、五木ひろし、青江三奈、ちあきなおみの出演で都会の夜のムードの歌を特集。

第一部は、夜のムード曲特集。石原が「夜霧よ今夜も有難う」、五木が「夜空」、ちあきが「夜間飛行」、青江が「池袋の夜」を歌い、合間にいちばん夜にツヨイのはだれかなど、それぞれの”夜の生活”ぶりなどを語り合う。

第二部は、石原と五木の歌合戦。石原が五木の「よこはまたそがれ」、五木が石原の「錆びたナイフ」ほかを披露する。

視聴者のリクエストによる”思い出の歌”は「くちなしの花」で、石原と五木が二人で歌う。

第三部は“石原裕次郎思い出の歌”と題して石原が青春時代に愛唱した昭和20年代のヒット曲を特集。青江が「懐しのブルース」、ちあきが「水色のワルツ」、石原・青江・ちあきの三人で「君待てども」ほか。

昭和51年7月26日

- ①「天知茂、橋幸夫、浅香光代の演歌殺法名場面！／唄くらべ三度笠だよ大勝負！」 #230
- ②橋幸夫、水前寺清子、藤圭子、天知茂、浅香光代
- ③「潮来笠」（天知・橋）、「雪の渡り鳥」（水前寺）、「旅笠道中」（天知）、「吉良の仁吉」（藤）、「花の三度笠」（橋）、「大利根月夜」（天知）、「一本刀土俵入り」（橋）、「流転」（水前寺）、「星の流れに」（浅香・藤）
- ④ おなじみの橋幸夫、水前寺清子、藤圭子に加えて、このほどLPも出して本格的な歌手の仲間入りをした天知茂、更に浅香光代と、にぎやかなメンバーで送る。

第一部は股旅演歌名曲集。天知と橋が「潮来笠」、水前寺が「雪の渡り鳥」、天知が「旅笠道中」、藤が「吉良の仁吉」、橋が「花の三度笠」ほかを歌い、合間に股旅時代劇の楽しさなどを語り合う。

第二部は“天知茂、橋幸夫、浅香光代の演歌殺法名場面”と題して、天知の「大根月夜」、橋の「一本刀土俵入り」をバックに浅香がそれぞれのサワリを、胸のすくようなタンカとあざやかな殺陣で披露する。次いで浅香が修業時代の思い出を語り、当時、劇中でよく歌ったという曲の中から「流転」を水前寺が、「星の流れに」を浅香と藤が歌う。

昭和51年8月2日

①「ジャンボ尾崎夜の艶歌に挑戦！／公開！都はるみの秘密！？／競演！ご当地盛り場演歌旅」

2 3 1

②都はるみ、内山田洋とクール・ファイブ、八代亜紀、フランク永井、尾崎将司

③「恋の町札幌」(尾崎)、「アンコ椿は恋の花」(都)、「長崎は今日も雨だった」(クール)、「なみだ恋」(八代)、「有楽町で逢いましょう」(フランク)、「君恋し」(尾崎)、「雨の酒場」(尾崎)、「好きになった人」(都)、「北の宿から」(都)

④ 都はるみ、内山田洋とクール・ファイブ、八代亜紀、フランク永井に加えて、ノドの方もプロ級と定評のあるプロゴルファーの尾崎将司をゲストに迎え、ヒット曲の数々を送る。

第一部は尾崎の「恋の町札幌」をオープニングに、都が「アンコ椿は恋の花」、クール・ファイブが「長崎は今日も雨だった」、八代が「なみだ恋」、フランクが「有楽町で逢いましょう」とヒット曲を披露。

第二部は、“ジャンボ尾崎夜の艶歌に挑戦！”と題して、尾崎が「君恋し」と新曲「雨の酒場」を歌い、尾崎のリクエストに応じてフランク、八代、クール・ファイブが一曲ずつ披露する。そのあと、尾崎を囲んでゴルフ談議に花を咲かせる。

第三部は“公開！都はるみの秘密！？”で、「好きになった人」「北の宿から」などを熱唱する彼女の魅力の秘密を一同が語り合う。

わが家にマイクやスピーカーの本格的設備を作り、歌のうまさでは定評のある尾崎は大変なテレ方で「きょうは皆さんの引立役ですから……」。

昭和51年8月9日

①「特集！ああ軍歌！ああ戦友！なつかしの戦時歌謡30曲(前)」 # 2 3 2

②春日八郎、ペギー葉山、近江俊郎、藤山一郎、灰田勝彦、田端義夫

③(出演順)「暁に祈る」(全員)、「麦と兵隊」(春日)、「父よあなたは強かった」(ペギー)、「月月火水木金金」(近江)、「燃ゆる大空」(藤山)、「愛国行進曲」(灰田)、「流砂の護り」(田端)、「露営の歌」(近江)、「愛馬行進曲」(春日)、「梅と兵隊」(田端)、「空の勇士」(藤山)、「空の神兵」(ペギー)、「加藤隼戦闘隊」(灰田)、「九段の母」(田端)、「海ゆかば」(藤山)

④ 終戦記念日を間近に控え、祖国のために散った幾百万の若人の鎮魂の意味も込めて、今週と来週の二回にわたり、戦前、戦中に愛唱された軍歌を特集する。

出演者全員による「暁に祈る」でオープニング。続いてそれぞれの歌手たちが終戦の時、どこで何をしていたか、敗戦を聞いた時の心境などを語り合う。そして再び歌、春日八郎が「麦と兵隊」、ペ

昭和51年

ギー葉山が「父よあなたは強かった」、近江俊郎が「月月火水木金金」、藤山一郎が「燃ゆる大空」、灰田勝彦が「愛国行進曲」を歌う。灰田はこの曲の吹き込み当日に召集令状を受け、直ちに近衛師団工兵連隊に入営した思い出を語る。

続いてそれぞれの歌手たちから軍隊生活・慰問の思い出を聞いた後、当時の兵士たちの生活、行軍、戦闘などを映したフィルムをバックに、田端義夫が「流砂の護り」、近江が「露営の歌」、春日が「愛馬行進曲」を披露。

続く”空”をテーマにした特集では藤山が「空の勇士」、ペギーが「空の神兵」、灰田が「加藤隼戦闘隊」を歌う。

田端が「九段の母」を歌った後、藤山の「海ゆかば」で幕。

昭和51年8月16日

①「特集！ああ軍歌！ああ戦友！なつかしの戦時歌謡30曲（後）」 #233

②藤山一郎、灰田勝彦、近江俊郎、春日八郎、田端義夫、ペギー葉山、鯨部隊の出身者

③（**出演順**）「同期の桜」（全員）、「若鷺の歌」（藤山）、「ラバウル海軍航空隊」（灰田）、「轟沈」（近江）、「あゝ紅の血は燃ゆる」（春日）、「別れ船」（田端）、「バタビヤの夜は更けて」（灰田）、「南国土佐を後にして」（ペギー・鯨部隊出身者）、「可愛いスーチャン」（春日）、「ダンチョネ節」（ペギー）、「母と兵隊」（田端）、「戦友の遺骨を抱いて」（春日）、「勝利の日まで」（近江）、「ブンガワン・ソロ」（藤山）、「ラバウル小唄」（全員）

④ 先週に引き続き”軍歌特集”を放送。

全員のコーラスによる「同期の桜」を皮切りに、第一部は連戦連勝に国中が沸き立っていた頃の軍歌を特集。藤山一郎が「若鷺の歌」、灰田勝彦が「ラバウル海軍航空隊」、近江俊郎が「轟沈」、春日八郎が”勤労働員”の歌「あゝ紅の血は燃ゆる」を歌う。

第二部は、出征兵士が望郷の思いを込めて歌った曲を特集。田端義夫が「別れ船」、灰田が「バタビヤの夜は更けて」、ペギー葉山が「南国土佐を後にして」を披露。通称”鯨部隊”の出身者がゲストとして登場し、「南国土佐を後にして」のできたいきさつなどを語る。

第三部は”兵隊ソング”特集。春日が「可愛いスーチャン」、ペギーが「ダンチョネ節」など。

近江は自身の思い出に残っている軍歌「勝利の日まで」を歌う。

視聴者のリクエストによる”思い出の歌”は、藤山の「ブンガワン・ソロ」。

フィナーレは全員合唱の「ラバウル小唄」。

なお、同年8月30日付中日新聞夕刊では、記者による以下のコラムが載っている。

「につぼんの歌」をいつも見ているが、二週続けてあった軍歌・戦時歌謡の特集で、歌の合間に戦時中の実写フィルムを映してくれ非常に感慨深かった。今後も折にふれ、ああいう記録写真を紹介してほしい。若い人たちに戦争の実態を正しく伝え二度と過ちを繰り返さないためにも——という手紙が、津市に住む知人から来た

昭和51年8月23日

①「熱唱！小林旭・帰ってきた渡り鳥／あれから30年…懐かしのスクリーンヒット曲」 #234

②小林旭、舟木一夫、青江三奈、ディック・ミネ

- ③「夜霧のブルース」(小林・ディック)、「誰か夢なき」(青江)、「三百六十五夜」(舟木)、
「ギターを持った渡り鳥」(小林)、「さすらい」(小林)、「上海ブルース」(舟木)、
「或る雨の午後」(青江)、「北帰行」(小林)、「ダイナ」(全員)

- ④ 小林旭、舟木一夫、青江三奈、ディック・ミネの出演で、終戦直後から昭和30年代半ばにかけての映画主題歌ヒット曲を特集。

第一部は、終戦直後のヒット曲特集で、小林とディックが「夜霧のブルース」、青江が「誰か夢なき」、舟木が「三百六十五夜」ほかを歌う。合間に、当時の世相と映画主題歌との結びつきなどについて一同が語り合う。

第二部は、“渡り鳥シリーズ”で大ヒットを飛ばした小林の主題歌特集。浅丘ルリ子とのコンビのステール写真をはさんで「ギターを持った渡り鳥」から「さすらい」まで、得意の”アキラ節”を披露。

第三部はディックを中心としたコーナーで舟木が「上海ブルース」、青江が「或る雨の午後」などを歌う。

視聴者のリクエストによる”思い出の歌”は、小林の「北帰行」。

昭和51年8月30日

- ①「異色トリオ初競演！森光子・都はるみ・森進一慕情艶歌・なみだ唄」 #235

- ②都はるみ、森進一、森光子

- ③「港町ブルース」(全員)、「別れのブルース」(森光子)、「上海帰りのリル」(都)、
「波浮の港」(森進一)、「ひとり酒場で」(森進一)、「赤坂の夜は更けて」(森光子)、
「湯の町エレジー」(都)、「酒は涙か溜息か」(全員)、「叱られて」(森光子)、

- ④ 都はるみ、森進一というトップ歌手に、最近歌の方でも活躍の森光子を加えた異色トリオで、おなじみのヒット曲からナツメロ、童謡を特集する。

第一部は波止場もののヒット曲集。三人で歌う「港町ブルース」を皮切りに森光子が「別れのブルース」、都が「上海帰りのリル」、森進一が「波浮の港」ほか。歌の合間に森光子が、戦争中、慰問団の一員として外地の港へ行った時の思い出を語る。

第二部は、酒場のムード演歌集。森進一が「ひとり酒場で」、森光子が「赤坂の夜は更けて」、都が「湯の町エレジー」、三人で「酒は涙か溜息か」ほか。

第三部は”森光子我が心の唄”。生まれ育った京都の町の思い出を語りながら、幼いころの愛唱歌「叱られて」ほかを披露。

昭和51年9月6日

- ①「特集あの日あの頃思い出のゴールデンヒット大行進！！」 #236

- ②青木光一、藤島桓夫、松山恵子、若原一郎、織井茂子、三浦洸一、大津美子、林伊佐緒、岡本敦郎、
富永一朗

- ③「小島通いの郵便船」(青木)、「月の法善寺横町」(藤島)、「だから言ったじゃないの」(松山)、
「吹けば飛ぶよな」(若原・富永)、「君の名は」(織井)、「東京の人」(三浦)、「ここに幸あり」(大津)、
「高原の宿」(林)、「白い花の咲く頃」(岡本)

- ④ 今回はいつもと趣向を変え、スタジオ公開で客席との交流を交えながら、昭和20年代から30年

昭和51年

代前半にかけてのヒット曲をつづっていく。

歌の合間に歌手自身の当時の思い出やそれぞれの歌にまつわる客席の反応などを聞く。

視聴者のリクエストによる”思い出の歌”は岡本敦郎の「白い花の咲く頃」。

若原一郎はゲストの漫画家・富永一朗とデュエットで「吹けば飛ぶよな」。

昭和51年9月13日

- ①「初挑戦！内藤九段対三橋、春日／絶唱！榎本美佐江涙で綴るおんな道」 #237
- ②春日八郎、三橋美智也、榎本美佐江、内藤国雄
- ③「天竜下れば」（春日・三橋・榎本）、「古城」（三橋）、「別れの一本杉」（春日）、「十三夜」（榎本）、「おんな船頭唄」（内藤・三橋）、「赤いランプの終列車」（内藤・春日）、「リンゴ村から」（内藤）、「お俊恋唄」（榎本）、「後追い三味線」（榎本）、「東京見物」（三橋）、「おゆき」（内藤）
- ④ 春日八郎、三橋美智也、榎本美佐江の三ベテランが、ふるさと演歌を中心にヒット曲を披露する。また、歌手としても活躍中の将棋の内藤国雄九段がゲスト出演、デビュー曲「おゆき」を歌う他、三橋、春日のヒット曲に挑戦する。

第一部は三ベテランのヒット曲特集。三人で歌う「天竜下れば」を皮切りに三橋が「古城」、春日が「別れの一本杉」、榎本が「十三夜」。歌の合間にそれぞれが幼い頃の秋の思い出を語り合う。

第二部は内藤九段が三橋、春日とそれぞれ「おんな船頭唄」「赤いランプの終列車」をデュエット、次いで三橋の「リンゴ村から」を歌った後、「民謡三橋流」の入門許可証を手渡される。

第三部は榎本のヒット曲特集で「お俊恋唄」「後追い三味線」ほか。

視聴者のリクエストによる”思い出の歌”は、三橋の「東京見物」。

昭和51年9月20日

- ①「お手を拝借！花のお座敷ソング大競演！／坂上二郎懐かしの歌大作戦／マヒナをめぐる二人の女」 #238
- ②水前寺清子、八代亜紀、和田弘とマヒナスターズ、若山彰、坂上二郎
- ③「お座敷小唄」（水前寺・八代・マヒナ）、「野崎小唄」（八代）、「大江戸出世小唄」（水前寺）、「まつの木小唄」（マヒナ）、「船頭小唄」（マヒナ・坂上）、「流転」（坂上）、「大利根月夜」（坂上）、「喜びも悲しみも幾歳月」（若山）
- ④ 水前寺清子、八代亜紀、和田弘とマヒナスターズ、若山彰、それに坂上二郎という顔合わせで、おなじみのお座敷ソングを特集。

第一部はいわゆる”小唄もの”の特集。水前寺、八代、マヒナの「お座敷小唄」を皮切りに八代が「野崎小唄」、水前寺が「大江戸出世小唄」、マヒナが「まつの木小唄」、マヒナと坂上で「船頭小唄」など。

第二部は坂上のコーナー。のど自慢荒らしで食いつないだ苦闘時代などを振り返りながら自ら司会をして「流転」「大利根月夜」などの演歌や童謡などを歌いまくる。

第三部は”マヒナをめぐる二人の女”と題してマヒナが水前寺、八代と共演。

”思い出の歌”は、若山の「喜びも悲しみも幾歳月」。

昭和51年9月27日

- ①「決定版！これが男の大演歌／激突！北島・五木・あの歌この歌大合戦」 # 239
- ②五木ひろし、北島三郎、田端義夫、青江三奈
- ③「男の純情」（北島・五木・田端）、「名月赤城山」（五木）、「兄弟仁義」（北島）、「流転」（青江三奈）、「大利根月夜」（田端）、「女のみち」（青江）、「島育ち」（田端）
- ④ 五木ひろし、北島三郎、田端義夫の演歌三人男に、紅一点青江三奈を交えて、戦前、戦後の演歌の名曲を特集する。

第一部は、演歌の名曲特集。北島、五木、田端の三人による「男の純情」を皮切りに、五木が「名月赤城山」、北島が「兄弟仁義」、青江が「流転」、田端が「大利根月夜」を歌う。歌の合間に、演歌に歌われた男ごころなどについて語り合う。

第二部は、五木と北島が岡晴夫ら先輩の曲を競演。

第三部は青江と田端のコーナー。青江が「女のみち」、田端が「島育ち」ほかを披露、「女ごころ」について語り合う。